他校の仲間と切磋琢磨

第43回全国高等学校総合文化祭

第43回全国高校文化祭が佐賀県で7月27日から8月1日まで6日間開催された。本校からはオーケストラ部や新聞部が参加した。

オーケストラ部は、鳥西の管弦楽部と米東の弦楽部と共に鳥取県合同オーケストラとして出場した。全国から49団が参加する中、ウェーバー作曲「オベロン」序曲を堂々と演奏した。部長の山本彩花さん（2年4組）に感想を聞くと「3年生が9人も残っていて、皆で協力して熱くなれる良い演奏でした。全国の発表を聴いて参考になりました」と笑顔で話してくれた。

演奏を終え達成感に浸るオーケストラ部

新聞部門では、全国から新聞部員約300名が参加した。12グループに別れ、交流と佐賀県各地の取材を行い、交流新聞を作成した。

本校代表は、鳥栖にある化学研究施設と佐賀出身の大隈重信について、全国の仲間と取材した。時間の短さ、普段は行わない手書きでの新聞作成に苦しむ生徒の姿が多く見られた。

参加した市橋侑樹さん（2年4組）は「他校とのレベルの違いに驚かされました。多くのことを学べたので、今後の新聞作成に生かしていきたい」と帰りの列車に揺られながら話した。

今年の総合文化祭のマスコットキャラはあさぎちゃん。あさぎちゃん人形は、どの部門の会場でも売り切れるほどの絶大な人気を見せた。

（広橋　市橋）

大人気のあさぎちゃん

踏み出す勇気が、自分を変える

「あまのがわ」とOriHime

心を無くしてしまった主人公が身体を無くした少年と旅に出る物語、映画「あまのがわ」が、8月10日に倉吉交流プラザ・視聴覚ホールにて上映された。

分身ロボット OriHime

この物語の主人公は自分のしたいことを母に反対され、不登校になってしまう。ある日、鹿児島の祖母のお見舞いに行き、一人の身体を動かすことができない少年（分身ロボットOriHime）と出会い、人生が変わっていく。

映画に出演する分身ロボットOriHimeは、オリィ研究所が病気や障害で行きたいところに行けない人のために開発した分身ロボットである。

オリィ研究所正規代理店の石原睦巳さんに話を聞いた。

●OriHimeの名前の由来は？

織姫と彦星のように離れたところでも繋がれるようにOriHimeと名付けました。オリィ研究所の吉藤社長の愛称が「オリィ」ということもあります。

●OriHimeを作ろうと思ったきっかけは何ですか？

吉藤社長が小学校５年生から中学校２年生まで不登校を経験し、孤独を解消しようと思ったことです。

●映画「あまのがわ」で見る人に伝えたいことは？

「踏み出す勇気が、自分を変える」がテーマですが、見る時の気持ちで視点が変わると思うので、色々な立場に立って見てほしいです。この映画を見て感じたことを人生に置き換えてほしいです。

会話をする石原さんとOriHime

その後、筋ジストロフィーという身体を自由に動かすことの出来ない病気を患っている岩田真帆さん(19)に話を聞いた。実際にOriHimeを使ってみて、自分で手を振ったりできることを新鮮に感じているそうだ。

（津村　野儀）

目指せ 鳥取の観光拠点

大江ノ郷自然牧場のこだわり

鳥取県八頭町にある大江ノ郷自然牧場。8月5日に鳥取県新聞部員夏季研修会が行われた。

大江ノ郷ビレッジに入る部員達

こだわりの卵

取材に応じたマネージャーの岡村浩道さん（43）は、この牧場の成り立ちを次のように説明した。

大江ノ郷自然牧場は、今年で26年目の「平飼い養鶏」の牧場。効率を重視し、ケージの中でニワトリを「物」のように扱う近代養鶏とは異なり、放し飼いにして養鶏を行う「平飼い養鶏」でできた卵を全国に発送している。

社長がこの牧場を開く前に体験した「自らのこだわりが商品に価値を生む」という体験をもとに「平飼い養鶏」や食品添加物無添加の商品づくりを行っている。

丁寧に回答する岡本さん

第六次産業への進歩

こだわりの卵の販売から始まった牧場は今では農業・製造・販売のすべてを行う、第六次産業化を進めている。養鶏場の横のカフェや店舗では現地で作られた卵や鳥取県産の原料を使った商品が販売されている。

カフェ・ココガーデンでは、シュークリームや焼き菓子などのスウィーツを食品添加物無添加で提供している。隣接する施設、大江ノ郷ビレッジにはパン屋や製麺所があり、お土産を買うこともできる。

農業を未来につなぐ

また大江ノ郷自然牧場では「農業を未来につなぐ」をコンセプトに小・中学校の社会科見学の受け入れや高校・大学での授業での利用もあるという。

「学生と一緒に稲作をすることで農業を発展させ、里山を守り、活性化を目指している」と岡村さんは語る。大学に対しては地域おこしの取り組みなどについて参考にしてもらっているそうだ。

卵白の活用研究求む

ニワトリのフンを肥料として再利用するなど、環境への配慮も忘れない。

また、スイーツを多く作るので卵白の使用量が少なくなってしまうそうだ。岡本さんは「卵白の有効活用を大学と共同研究していけるとよい」とビジョンを語った。

卵の濃厚な風味を活かしたプリン

鳥取観光の拠点に

カフェやレストラン、ショップを併設する大江ノ郷自然牧場を訪れる観光客は2017年に31万8千人を記録した。最近では、周辺の廃校になった小学校を活用したホテル「OOE VALLEY STAY」が完成した。

岡本さんは「八頭を観光の拠点にしたい」と語る。ホテルに宿泊して、県内の別の観光地にも行ってもらえるようにしたいと意気込んだ。施設の目標は、来客数を鳥取県の人口と同じくらい（約60万人）集めることだそうだ。

（正司　高野　市橋）

1行編集後記　宮崎、沖縄、佐賀、東京など全国各地での倉東生の活躍をまとめる号となりました。新聞部も更なる進歩を目指します。（市橋）